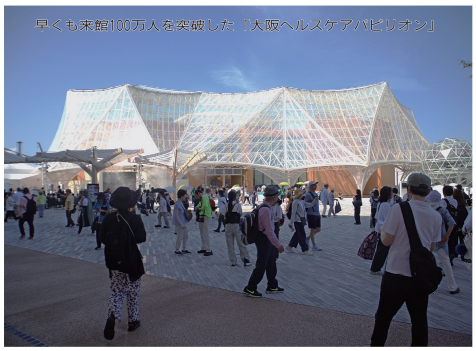
全日ブース「みんな暮らしの街」盛況


早くも来館100万人を突破した「大阪ヘルスケアパビリオン」

フィーチャー かんさい～好調、万博

大阪・関西万博

心躍る未来の街に釘づけ
「共助」の考え浸透した世界観

大阪・夢洲で開催中の2025年日本国際博覧会（2025大阪・関西万博）「大阪ヘルスケアパビリオン」と、同館内「ミライの都市」ゾーンに出展した全日本不動産協会（全日）ブース「みんな暮らしの街」が事前の予想を上回る賑わいをみせている。2050年の近未来を舞台に、「自分」のアバター生成、健康状態などをつかんだうえでミライの街や医療・食、先端技術などに触れることができ、アップグレード型「人間洗濯機」やiPS細胞をはじめとした盛りだくさんの展示が体験欲を刺激。小一時間はかかる展覧会も来館者は一様に満足気の様子をみせている。

小中学生の関心も高い全日「みんな暮らしの街」と「ミラビー」

「子ども達の記憶に残る展示」に

多彩な展示の中で異彩を放つのが大阪ヘルスケアパビリオン「ミライの都市」ゾーンの全日ブース「みんな暮らしの街」だ。2050年の都市や街はどんなものになるのか学生や建築家、デザイナーを対象に未来の住まいのアイデアを募るコンペを実施・映像化、3Dの「ミライの宅建士・ミラビー」がガイドする。

全日ブースの運営管理は大阪府本部事務局が担当。パビリオンと連携し毎日多くの来館者に「みんな暮らしの街」の住まいやミライの宅建士の役割などを紹介している。

少子高齢化という現実問題を直視。共助の考えが浸透したコミュニティ都市が形成されるとの未来予想図を展開。未来でありながら現実感も抱かせる内容になっている。50年の宅建士は地域コミュニティの中心的存在として活躍すると、親しみやすい身近な存在として「ミラビー」を創出。「うる星やつら」などで知られる高田明美さんがデザインし、イラストレーターで米子ガイナックス代表の赤井孝美さんがアニメ制作を監修した。

老若男女問わず展示をじっくり見ていく中、外国人や修学旅行や校外学習の一環でやってきた小中学生たちの見学が多い。「カワイイ」を具現化した「ミラビー」が刺さるようで、赤井さんも「日本のアニメが世界で支持される理由の一つがキャラクターの『可愛さ』で、『Kawaii』は世界共通の言葉になっています。海外でも人気の高い高田明美さんがデザインされた『ミラビー』の可愛さをどうやって伝えるかに苦心しました。アニメならではの自由さ、多様さで描く2050年の『未来の住まい』を楽しんで頂ければ」とし、子どもに夢を与えられればという全日の思いも実現した。（写真は「ミラビー」のアフレコ風景。声優でナレーターの高見桃子さんがミライの宅建士「ミラビー」に命を宿す。左が米子ガイナックス代表の赤井孝美さん）

「ミラビー」©高田明美

「ミライREBORNスマイビジョン」策定
「地域のライフプランナー」に
次代の宅建業 強まる公的性 重層的に分析

団塊世代がすべて75歳以上の後期高齢者となり、医療や介護、税負担の増大など様々な課題に直面する「2025年問題」突入の年に大阪・関西万博は開幕した。

住宅・不動産、都市づくり分野では、バリアフリー化や耐震改修、省エネ化といった安全で快適な長期耐用資産形成がなかなか進まず、老朽インフラ整備未着手による都市機能低下も問題化してきた。

単身高齢者世帯が増え続け地域コミュニティも希薄化し、孤独死リスクを高めるばかりか、街ぐるみだった防犯意識・体制も機能不全に陥り、安全神話崩壊にもなりかねないなど、様々な課題が顕在化してきた。

これに待ったをかけようというのが、全日の「みんな暮らしの街」だ。健常者・障害者、老若男女を問わず、コミュニティの中で相互に助け合いながら誰もが暮らやすい住まいや街をともに創っていく「共助」を柱とした市民参加型のまちづくり共創構想で、当然ジェンダーフリーやダイバーシティ具体化への道筋も重なる。

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の世帯数の将来推計」によると、25年時点で53・2%、40・1%の核家族世帯と単独世帯の割合は2050年には49・6%、44・3%となる。核家族世帯が25年の3025万世帯をピークに2610万世帯にまで減る一方、単独世帯は2330万世帯と均衡し、単独世帯のうちほぼ半数が65歳以上の単身高齢者世帯になる。

住宅戸数が十分充足している中での需給のアンバランスと高齢化が、空き家の増加を伴う地域コミュニティ希薄化を加速させる。「みんな暮らしの街」の背景にはこの現実に対する全日の強い危機感がある。

全日は「ひとり暮らしを支える医療・福祉の整った地域コミュニティが求められる」と指摘、共助の考えに基づく方策具体化が急務だとし「みんな暮らしの街」を提唱。その内容・中身と必要性を重層的に理論体系化するため、有識者の提言を取り入れながら、2050年の宅建業の指針となる研究報告書「ミライREBORNスマイビジョン」としてとりまとめ、万博直前の3月末に公表した。

「スマイビジョン」では、①都市・地域のあり方と課題を探る「まち」②住宅に求められる要素を掘り下げる「住まい」③不動産の価値のあり方を考える「資産価値」④人手不足克服をも考慮した街づくりの人的資本形成モデルを示す「人への投資」―について第1～4章で考察。そのうえで第5章「宅地建物取引業者の対応」で社会的要請に応えていく次世代の宅建業者・宅建士の姿を提示している。

各章それぞれに専門の大学教授らが提言を寄せており、ビジョンがより体系づけられている。特に第5章では「地域の総合的な触媒役」として「みんな暮らし」をバックアップするのが宅建業者だと定義。これに対して中川雅彦日本大学教授が「触媒業務を増やすことが重要」だとしたうえで、「地域のライフプランナー」として活躍すべき資同している。

「スマイビジョン」全文は全日出展ブース内の展示パネル二次元コードからが、全日が出展するパーチャル大阪パビリオンから閲覧できる。

「みんな暮らし」実演・披露も
屋外イベント 9月4日開催

「大阪ヘルスケアパビリオン」の「リボーンステージ」で全日本不動産協会は、9月4日（木）に、ショーや講演などからなる特別イベントを開催する予定だ。

共助の考えに基づいた地域コミュニティが息づく2050年の「みんな暮らしの街」で繰り広げられる毎日の暮らしや生活の一端を実演・披露。「みんな暮らしの街」をどう実現するかの方策なども提示できるよう準備を進めている。同行われる全日の全国大会（第61回全国不動産会議大阪府大会）に併せての開催となる。

「リボーンステージ」では大阪ヘルスケアパビリオンの共通テーマ「いのち」や「健康」、近未来の暮らしに軸足を置いた産官学民による様々なイベントが連日開催されており、全日のイベントもその1つとして行われる予定で、館内ブース展示と合わせて、「みんな暮らしの街」を楽しく気軽に体感できるひとときになりそうだ。

人気の「大阪ヘルスケアパビリオン」
5月末に来館者100万人突破
400万人超え視野
全日ブース一層注目

大阪ヘルスケアパビリオン来館者が、大阪・関西万博開幕から46日目の5月28日に100万人を突破した。開幕以来来館者数は順調に伸び、万博開催から折り半分の1が過ぎた時点で100万人を達成。このままのペースで進めば総来館者数400万人超えとなり、当初想定の280万人を大きく上回る見通しで「同館に出展する各出の『みんな暮らしの街』ブースもさらに注目を集めそうだ。

同日には大阪ヘルスケアパビリオン「リボーンステージ」で記念セレモニーが行われ、2025年日本国際博覧会実行委員会推進委員会会長を務める吉村洋文大阪府知事と西澤良記大阪ヘルスケアパビリオン館長、ミャクミャク、「大阪ヘルスケアパビリオンもずやん」が登壇。多くの観客で賑わう中、100万人目となった広島県下関市から来場の30代夫婦への記念品贈呈・記念撮影などで喜びを分かち合った（写真下）。

吉村知事は5月26日に万博来場500万人を達成していたことを報告し、「5人に1人が大阪ヘルスケアパビリオンに来ていただいたということで大変嬉しく思っている。多くの方々に来館していただき来年を感じてほしい」と話した。

バーチャルも絶好調

1月に先行公開したバーチャル大阪パビリオンも絶好調。数百万人のZ世代のアバターが全日のバーチャルブースでミラビーソングを聞きミラビーとフォト撮影をしている。

提供：（公社）大阪パビリオン

全日本不動産協会の
大阪ヘルスケアパビリオン催事開催!
「みんな暮らしの街」をテーマに講演や歌劇団のレビューを予定しています。
場所：大阪・関西万博大阪ヘルスケアパビリオン「リボーンステージ」
観覧自由（大阪・関西万博の入場チケットが必要です。）
最新情報は、全日本不動産協会の万博特設サイト（QRコード）をご覧ください。
Osaka Healthcare Pavilion Nest for Reborn
ZENNICHI 公益社団法人 全日本不動産協会
全日本不動産協会 万博特設サイト
2025.9.4 開催
全国不動産会議 大阪府大会特設サイト
第61回全国不動産会議大阪府大会
テーマ「REBORN-再生- 大阪から世界に発信する”心”空間」
場所：大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）
時間（予定）：全国不動産会議大阪府大会14:00～16:15/交流会（第1部）16:40～17:40
最新情報は、全国不動産会議大阪府大会公式サイト（QRコード）をご覧ください。
提供：（公社）大阪パビリオン